



[CG5WCf](#)

内海実さん(65歳)

京都府舞鶴出身の内海実さんと幼なじみの妻茂野さんは東京福生市で暮らしていた頃、安さに惹かれて東北の自炊温泉湯治宿に宿泊し源泉かけ流しの温泉の素晴らしさにはまってしまいました。

それから夫婦で日本各地の地域の人が通うような温泉共同浴場巡りが始まりました。印象深いのは草津温泉。共同浴場は24時間開いている上、誰でも無料。その時いつかは毎日温泉がある暮らしを手に入れるぞと決意しました。



[IMG 3832](#)

選んだのは下賀茂温泉

2006年春、子供達が巣立って夫婦二人切り。いよいよ移住地探し、伊豆は観光地のイメージが強く候補地ではなかったが知人を訪ねた際、下賀茂温泉のお湯のパンチ力に驚き、気候温暖、のどかで環境も素晴らしい南伊豆に決めました。当初は街から5km程離れた所に家を借り、まずは移住を果たしました。ところが同地の共同浴場はどこも地域住民専用、よそ者は入れて貰えません。しかも住んだ地域には温泉が出ておらず共同浴場也没有せん。



[IMG 3212](#)

2月には早咲き桜でピンクに染まります



[IMG 3834](#)

「温泉に入りたい。」と口を開く度に唱えていると1年位経った頃、コンドミニウム式旅館が格安で売りに出ているとの情報がありました。見てみると雨は漏るし、ガラスは割れている正に廃墟。しかし熱い温泉が湧いています。よし、自分達でやると決意。色々な人の協力を得てコツコツとリフォームを開始、共同浴場だけは大工さんに無理を言って木造の湯屋を新設しました。



[燦々村イラスト](#)

#### 完成した湯屋

2008年1月に移住して2年足らずでやっと念願の共同浴場「燦々村」が完成しました。源泉は60℃もあるため、薄めずに入浴適温に保つのは大変。廃棄されたエアコンの銅管を使って水道水との熱交換器を設置するなど工夫をこらした100%源泉掛け流しが自慢。共同浴場は会員制としてルールを制定、ほとんどどこにもないゲスト入浴を許可しています。



[IMG 3842](#)

#### 100%源泉掛け流しが自慢



[IMG 3846](#)

#### 梅本町長とのミニ集会

温泉おたくを自認する内海さんご夫婦は高齢化と過疎化が進む町の行く末を心配し、「素晴らしい下賀茂温泉の活用こそ町を救う。」と町長あてに提案書を提出。積極的に町民の意見を聴く姿勢の梅本町長は早速内海さんとのミニ集会を提案、燦々村での意見交換が実現しました。春は桜で、夏には海水浴で大人気の南伊豆ながらその他の季節の集客が課題。そこで内海さんは閑散期に素泊まりで数泊するような長期滞在型の湯治プランを提案。町長からは、「かつては120本程もあった源泉で今稼働しているのは60本程度。温泉の維持管理には多大なコストが必要。数多くの源泉を一括管理出来れば高度な活用が出来ることは分かっているが町の予算では非常に厳しい。具体的な良いアイデアを持って来てもらえれば町としても応援したい。」との回答がありました。

温泉で町の活性化を図りたいと言う内海さんご夫婦の思い、実現にはたくさんのハードルが待ち構えているでしょうが、共同浴場を一から立ち上げた不屈の精神で乗り越えていかれるものと思います。

生きがい特派員 賀茂地区担当 福居通彦

ご夫婦の燦々村温泉設立物語の詳細は下記HPでご覧下さい。読み易くて面白いです。

<http://sansamura.web.fc2.com/>

